

令和5年度第3回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 委員委嘱

新任1名含む10名の委員に委嘱

2 市長あいさつ

市長欠席のため副市長よりあいさつ

3 会長及び会長職務代理の選出について

- ・互選により岩崎委員が会長に選出
- ・会長の指名により岡島委員が会長職務代理に選出

4 議題

北名古屋市デジタル田園都市構想総合戦略（素案）について

<事務局>

【資料1 北名古屋市デジタル田園都市構想総合戦略（素案）について説明】

<A委員>

国がDXを推し進めている流れで、市が追従していくことは理解できるが市民にとってデジタル化を進めていくメリットを示すとよいのではないか。

2ページのデジタル田園都市国家構想の中で、女性デジタル人材の育成・確保とあるが、あえて女性と書いた理由はあるか。

<事務局>

デジタル化によるメリットについては、7ページの地域ビジョンのデジタル技術を活用した安全で快適なまちの中でもう少し分かりやすく整理していく。

女性デジタル人材の記述については国の総合戦略の抜粋である。計画において、あえて女性を記載することについては議論していく必要がある。

<会長>

デジタル化が市民の生活にどう関わり、向上していくかをわかりやすく伝える必要がある。

<B委員>

9ページの全体構成においてこれまでの基本目標と具体的な施策が1対

1 の関係であったものがデジタルの活用、共創によるまちづくりという横断的な視点が加わった。これは、それぞれの施策がお互いに影響を与え、より向上すると理解すればよいか。また、K P I の進捗率や目標値をチェックして効率よく具体的な政策に反映していくということなので、その点についての記述があればよいと思う。

<事務局>

横断的な視点については、お見込みのとおり。県も同じ構成をとっており最近の流れだと思う。

K P I による進捗管理については10ページで記述しているが、もうすこし分かりやすい文章を検討する。

<C委員>

スタートアップの創出支援についてですが、愛知県は現在、笹島のプレステーション AI においてスタートアップ支援を始めている、また来年秋にオープン予定のステーション AI において千社の参加を目標とするなど大変力を入れている。本市においても地域を盛り上げていくうえで非常に重要だと思うので連携してほしい。

<会長>

ステーション AI と来年10月開館予定の市民活動センターと上手く連携できるとよい。

<A委員>

市民活動センターのためのワークショップに参加しているが、参加者のイメージは、センターにてワークスペースが確保されるという程度のイメージだと思う。今後のワークショップでは、県が力を入れているステーション AI の動きなどを話すと心が動くと思うので声を大にして伝えてほしい。

<事務局>

県のプレステーション AI は、既に視察させていただいたが大変先進的に取り組まれていた。市民活動センターができればパートナー拠点になるなど、乗り遅れないように所管課と情報共有していく。

<D委員>

自分の職場でもDXを進めていく中で、紙から完全にデジタルに移行でき

ない状況があり、結局事務の手間が2倍となるケースがある。

DXは一つの方法だが、目的次第で紙が便利な場合もある。何が一番便利なのかを考える必要がある。

<E委員>

DXを進めていく先の市の組織の在り方、職員数について考えていることはあるか。

<事務局>

DXを進めていくうえで、デジタルに置き換えることを目的とせず、市民にとって何が一番便利なのかを考えながら取り組んでいきたい。

また、DXによる行政事務の効率化は大きい目標の一つであるので、DXを活用しながら職員数の削減についても目標として見据えていきたい。

<会長>

DXの推進によって、大量反復的な事務はデジタルにまかせていく。一方で、職員はそれぞれの地域の個別具体的な問題に取り組んでいく。そうすると、必ずしも職員が減るところにはいかないかもしれない。

5 報告

(1) 市民説明会の開催結果について

<事務局>

【資料2 市民説明会の開催結果について説明】

<会長>

説明会の申込みについて高齢者もかなりの割合で電子申請をされているのは何か理由があるか。

<事務局>

ロゴフォームという、利用者にとって使いやすい仕組みを取り入れたことが電子申請が増えた理由の一つと考えられる。

<C委員>

説明会に参加されている市民からの評価が高いことは素晴らしい。ただ参加されていない多数の市民をどう巻き込んでいくかが今後の課題だと思う。

<事務局>

補足だが、市民説明会とは別に、市長との対話集会を開催している。先日

も30代、40代の男性を中心としたイクメンプロジェクトという団体と開催した。次回は学校の生徒との対話集会在り予定されており若い世代に向けて働きかけをしている。

(2) 公共施設の包括管理業務委託について

<事務局>

検討状況の報告

<B委員>

包括管理に係るコストの把握は難しいと思うが、導入によってタイムリーな修繕を行うことで、結果的により長期的なコスト増を防げるという考え方もできると思う。

<事務局>

担当としては、施設管理の質が確保でき職員の負担減になるので、包括管理の導入に積極的であるが、新規事業となるため予算化というハードルがある。今後も導入に向けて働きかけを行っていく。

【閉会】